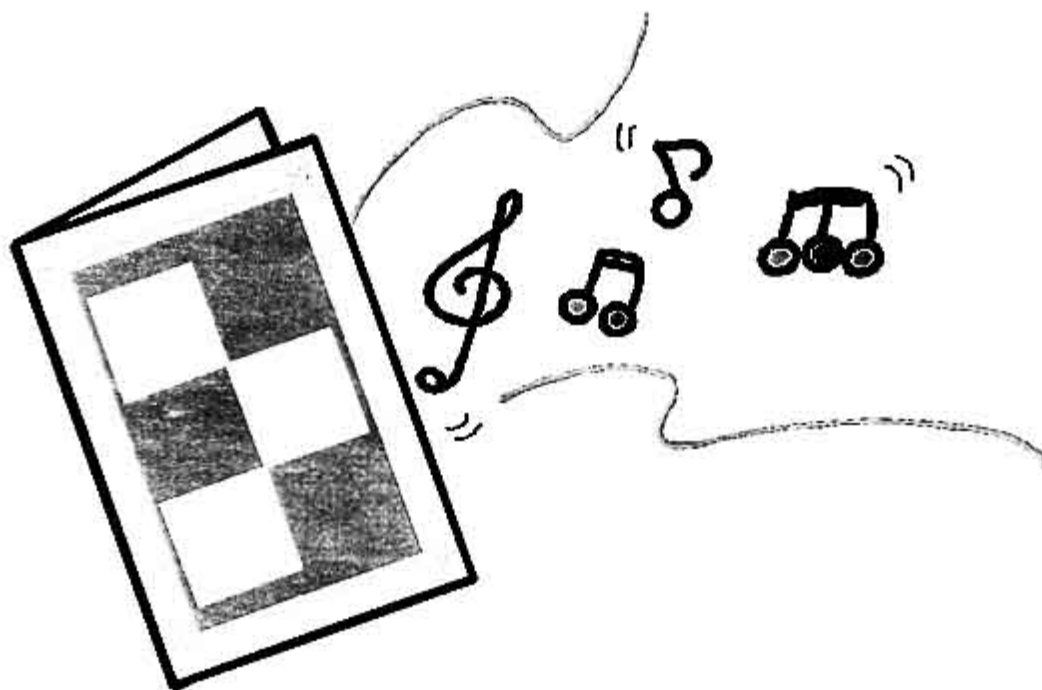


♪ シニア便り ♪



第 6 号 (2005年7月発行)

発 行 北海道シニア吹奏楽団 事務局

編 集 『シニア便り』編集部

新企画

パート制レーゼッタ

クラリネット編(一)

高橋 由美

クラリネットパートの若い順から：
ということ。

クラリネットパートの一番若い（ホントは若くない↓）高橋由美です。シニアで吹かせて頂いて早くも三年目になります。私がシニアに入った経緯を聞いてください！

楽器も買ったが、市民バンドはレベルが高いし…と思いつながらインターネットの色々なバンドのHPを見ていた時、シニアのHPの団員募集には『経験の長さ、技術の有無は問いません』とあり、かなりビビンときました。

しかし、演奏も聴いたことの無いバンドで、初心者の方は仲良しの（SAXパートの）反保先輩について来てもらいシニアの練習を見学させてもらって（この時、久光さんに「反保さんと」と夫婦ですか？」と聞かれたことはショックでした（笑））、和気藹々とした感じの雰囲気が好きになり入団させていただきました。まだ技術はとて未熟ですが、（お酒と）音楽が好きという気持ちは皆さんと同じ位あるつもりでいますので、よろしくお願ひします。

追伸：仕事で家具が必要で、皆さんの中で不要な家具がありましたら連絡いた

だけると幸いです（特にソファ・食器棚など）。

新入団員からのあいさつ

クラリネット 山田 光国

今年の四月で 六十二歳に成りましたあつというまに年輪を重ねて

気持ちだけは青年

小さな会社の 現役社長として

若い社員と毎日がんばってますが

体力の減少 忘れっぽい

根気 気力の衰え 髪の毛も薄くなり

寂しい限りです

六十歳 還暦を迎えた年に

このまま老いて行くのが 寂しく感じ

ボケ防止を 兼ねて何かを

しなければと思ひ

自宅の隣の空地を 借りて少しながら

畑を耕し

一週間に 一度か二度

スポーツ・ジムに通ひ

仕事は三十%程カットし 社員に任せ

なるべく 自分の為に時間を取るように

昨年の六月から ヤマハに

クラリネットの 個人レッスンに通ひ

何せ四十四年前（約半世紀）高校時代に

吹いて以来 レベルは小学生低学年並み

練習の成果で、少しずつ吹けるように

なり 九月の下旬にヤマハのコンサート

パンフレット置き場に

当シニア吹奏楽団の定期演奏会の案内が

有り シニアの名前に興味抱き

僕の世代の方たちが、多いのかなと

思いながら 昨年の十月十一日

興味津々小雨の中 会場へ 開演となり

四十人程の団員で格好良かったが

僕が思ってるシニアが

パラパラと 小人数 ゴルフのシニアが

頭にあるので 理解できず

若い人達は応援の方たちと 思いながら

少し共感を感じ だが 老若男女

年齢差感じられず 一生懸命

演奏してる姿勢に感激し

何か団員の充実感が 生き生きとした

思いが 見え

又 吹奏楽団の活動主旨 飲み会 ゴルフ

又 団員の募集案内が目止まり

僕みたい下手な者でも

ハードルが低く思え コマーシャル

タイズの正露丸のテーマ曲で

トランペットの近藤さんが

ミスしたとき 観客の笑いが

失笑でなく ガンバレと言う 心暖まる

雰囲気を感じられ 今まで沢山

吹奏楽の演奏会に聞きに行つたが

全然違う雰囲気

又 会社 自宅からも 練習場が近く

早速十二月に見学を 申し込み

一月にも見学させてもらひ

思った通りの暖かい雰囲気

事務局の渡辺さんにも 団の説明と

アドバイスを受け

二月から練習に参加させてもらひ

全然吹けない お客さん状態の中で

花野さん 林さんに いろいろと親切に

教えてもらひ 三月に正式団員に

僕の後からも練習日毎に 新入団員が

入団し 僕と同じような暖かい雰囲気

気持ちで入ったと思ひます

今は練習日が楽しく（苦しみも有り吹け

ない場面が多々ある）

第二 第四日曜日は NOスケジュール

シニアが第一優先 他の用事は お断り

初恋状態 ジジイの青春を謳歌するぞ

雑音に ならぬように がんばります

皆よろしくね

※いただいた原稿そのままの雰囲気は少しでも伝わるよう、編集部判断により自由詩風の記述方法をとらせていただきました。

ユーフォニウム 葛西 幹也

はじめまして。この度お世話になりました。葛西幹也と申します。よろしくお願ひ致します。

私は倶知安の中学・高校で、六年間吹奏楽部に所属しておりました。この六年の間に、いろいろな楽器をやりました。シンバルから始まりホルン、アルト、バリトン等としてユーフォニウム。中でもユーフォニウムの音色に惹かれ、私にとっては大好きな楽器となりました。ユーフォニウムを演奏していると、とっても

幸せな気持ちになっていたものでした。学校を卒業後またチャンスがあればバンドをやりたいなど思っていました。なかなかそう言う機会に巡り合えず今まで過ぎてしまいました。私はどちらかと言うと無趣味で、今思えば仕事一本やりの人生でしたが、それでいいのかなと思っようになつていました。

昨年の今頃のある朝、新聞の朝刊にマーチングバンドのメンバー募集の記事が載っていたのを読み、これだと思いきつそく説明会に行き入団を決意しました。しかし、私のマーチングバンドに対する認識が甘く、練習が始まってみるとそれはハードな練習の連続で、これは音楽じゃなくスポーツだということを実感しました。しかし、入った以上やるだけやってみようと、八月の札幌ドームでのデビュー目指し頑張りました。そしてデビューしたのですが、終わったと体力が抜けたような感じになり、自分には体力的に無理だなと言ふ気持ちにもなり数ヶ月後、休団届けを提出し休んでいました。

しかしなにか物足りなく、ある日なにげにインターネットで検索していたら、シニア吹奏楽団のページが目飛び込んできました。開いてみて楽団の結成の成り立ちや趣旨を拝読させていただき、ひよつとしたら自分に合っているのではないかと思ひ、電話で申し込み見学をさせていただき、想像していたとおりの和気

藪々とした雰囲気練習風景を見て即、入団を決意いたしました。また、月一回の懇親会があると言うことで、私も酒が嫌いな方じゃないのでとつても楽しみにしております。皆さん今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

アルトサククス 加藤 梨那

今年度から正式に入団致しましたサククスパートの加藤梨那と申します。シニア吹奏楽団の練習に初めて参加したとき緊張のしすぎで楽器が鳴らなく、合奏中にキーキーと音ばかり鳴っていました。最近はやつと落ち着いて合奏についていけるようになりました。しかし、新しい楽譜を見ると固まってしまうのは今も変わらないです。

私は中学のとき吹奏楽部でサククスを吹きたかったので、サククスパートに入る事ができませんでした。それからずつと、いつかはサククスを始めたいと思つており、二年半前によく始めました。吹奏楽団に入るのが目標で、一年間個人レッスンを受け、その後は時間の合間を見つけて練習をしながら、ほとんど初心者私を受け入れてくれる吹奏楽団を探していました。今もなかなか思ふように吹けず悪戦苦闘しておりますが、月二回の練習日が楽しく、たいへん充実しております。

また、親切な方々に囲まれ、人付き合

いの下手な私ですが徐々に皆さんと会話することができるようになり、シニア吹奏楽団はいろいろな面で成長できる場だと思つています。早くメンバー全員の方の顔と名前を覚え、場に馴染めるよう努力して参りますので、よろしくお願い致します。

『フルートとの出会い』

フルート 村山 幸恵

まさか、私がフルートをやるだなんて誰が想像したでしょうか。音楽は特殊な才能を持った人がするものだと思つていました。もちろん、そんなものには自分にはないと。

初めての音楽との出会いは、ピアノ。親の勧めで幼稚園から小学校卒業までピアノ教室に通っていました。

・冬の雪の中、教室の帰り道で犬に追いかける。公でも大は苦手で、発表会で、あまりの緊張で暗譜していた最後の部分を忘れてしまい不協和音で終わる。

など、いい思い出はなくピアノは上達しませんでした。

小学校の運動会には、高学年全員参加による鼓笛隊でのグラウンド行進がありました。大多数は鍵盤ハーモニカ、ピアノが好きになれなかった私は小太鼓（五年）とトランペット（六年）を選びました。自分が他の人とは違う役割を果たし

ているような達成感がありました。

それから暫くは音楽とは接することがなく、高校へ入学しました。入学してすぐに行われた部活紹介。今でもその時の衝撃を鮮明に覚えています。各部の紹介が順番に行われ、体育会系の部活にしようかと思つていたところ、当時マーチングをやっていた吹奏楽部は私の抱いていた文化系の部活に対する偏見をぶち壊してくれました。目の前で繰り広げられる迫力のある演奏にすっかり心を奪われてしまいました。その時初めて音楽を聴いて鳥肌が立つという経験をしました。

その後、部活見学には一番最初に吹奏楽部に行きました。先輩が各パートを案内してくれ、最後に希望するパートへ行くというものでした。私は小学校でやったトランペットか、見た目のカッコいいサククス希望でしたが、どちらも見学者が多く練習できる楽器が足りないため体験できませんでした。楽器のことなどわからない私は一人途方に暮れていたところ「誰かフルート見学来ない？」と案内してくれた先輩。「はい、行きます」とその声に釣られてしまいました。

顧問の先生がフルート専攻だったため代々中学経験者の上手な人がいるということでした。そんなことも知らずにフルートを選んでしまい、後から少し後悔したこともありました。私たちの代からフルートが下手になったと言われるのが悔しかったのと、先生に認められたいとい

う一心で三年間過しました。卒業時に顧問の先生が「頑張ったな」と言ってくれたので、続けてよかったですなと思いましたが。

その後卒業してからは吹く機会がなくなっていくかまた始めようと思っていたところ色々な偶然が重なり、このシニア吹奏楽団に出会えました。偶然だけではなく、運命というかそんな風に感じてしまいました。

フルートは私に色々な事を教えてくれた皆さんの人に出会わせてくれました。これからもそんなフルートを大切にシニアで楽しく続けていきたいと思っています。こんな私ですが、どうぞよろしくお願いします。



川柳

健康も

シニアの音色も

腹式で

オーボエの

響を求めて

氣付けば九年

一生

一生

笛吹ける

至福の時間とくは

残り少なし

一生

チューニング広場

去る五月十四日に、平成十七年度定期総会が札幌市内のホテルサンフラワーにおいて開催されました。林団長が久々に出席され、終了後の懇親会にも参加されるなど、大変お元氣な姿を私たちに見せておられました。

議事については、吉田和夫さんを議長に選出し、十六名の出席者と二十三名からの委任状受理を確認し、総会の成立が宣言されました。議案審議の結果、平成十六年度収支決算報告（監事の花野さんから監査報告あり）、平成十七年度予算案ともに承認されました。役員改選については、事務局より一任願いたいとの要請があり、事務局案が提示された結果、原案とおり承認されました。

審議の終了後、企画委員長でもあった吉田さんより、四月十日の役員会で企画委員会の休止を提案し承認されたことの報告がありました。今後、企画委員会の業務であった「団のあるべき姿についての協議検討」と「新入団希望者の意識調査」については、役員会と事務局が担う

こととなります。これに関連した事務局からの連絡事項は、次のとおりです。

・「副指揮者」を置くかどうかについては、今後役員会で検討を進めること。

・見字や新入団を希望する方がいる場合は、あらかじめ事務局に一報をいただきたいこと。

・各パートでリーダーを決め、リーダーを通じて新たなメンバーが必要かどうかなどを事務局に連絡していただきたいこと。

定期演奏会実行委員会からは、一月十五日の発足から現在までの活動の経過について報告がありました。演奏会当日まで、総会時点であと半年を切る状況となってきたことから、今後は第三部の曲目について団員アンケートの準備を進めることを説明し、また、これからの活動に対する協力の依頼がなされました。

総会で決定した今年度の運営体制は次のとおりです。また、定期演奏会に向けた実行体制も再度お知らせします。

団長 林 正輝
副団長 中村 暁生

理事 阿部 薫
(常任指揮者)

(コンサートマスター)
勘米良 二六生
久光 秀樹
吉田 和夫

監事 前谷 浩市

事務局長 渡辺 順三(理・実)

事務局次長 高橋 章子(実)

定期演奏会実行委員会

委員長 林 重男

委員 小西 悟

近藤 学

※ 理Ⅱ理事、実Ⅱ定期演奏会実行委員

※ 退団された花野前監事の後任として

出野実月さんを選任しましたが、出

野さんも七月中をもって退団するこ

ととなりました。現在、役員会で後

任の監事を選考中です。

《編集後記》

シニア便りの第六号、いかがでしたか？ 新たに仲間入りした皆さんの、それぞれの持ち味がよく出た。あいさつ、クラブパートのリーダー兼コンマスの発表で始まったリレーエッセイなどなど、お楽しみいただけただければ幸いです。できるだけ多くの方に「登場いただきたいので、どうか構えず負担に思わず、気軽に原稿をお寄せください。また、紙面づくりのアイデアも大歓迎です。

監事や理事として団の活動に貢献された花野さんと出野さんが、相次いで退団。ご自身あるいはご家族の仕事の都合でとのこと。お二人とも、本当にお疲れ様でした。お元氣で！

(編者)